

## 地域日本語教育コーディネーター研修受講者が実践活動で取り組んだ主な課題例

### ■地域における日本語教育の現状把握・分析

- ・地域における日本語教育・日本語学習支援の現状把握ができていない
- ・学習者のニーズの把握ができていない
- ・学習者数が少ない・減少している
- ・外国人散在地域における日本語教室開設に向けた課題の整理と準備ができていない
- ・日本語教室における教育内容の見直しと改善策の策定ができていない

### ■連携・協力体制の構築

- ・地域における日本語教室間のつながりがない
- ・日本語学習支援者同士のネットワークがない
- ・仕事や生活と日本語教室とのつながりが作れていない
- ・日本語教室の活動が行政や地域からの理解を十分得られていない
- ・立ち上げたばかりの日本語教室へのサポートができていない
- ・児童・生徒を対象とした学校への適応指導教室と各学校との連携がうまくとれていない

### ■日本語教育に関わる人材の育成

- ・日本語学習支援に携わる人材が不足している
- ・日本語教室に関わるボランティアが定着しない
- ・バイリンガル講師（支援者）の養成ができていない
- ・日本語教室に関わるボランティアに対する研修などの学びの機会が少ない
- ・地域における日本語教育事業をコーディネートできる人材がいない

### ■日本語教育プログラムや教室活動のデザイン

- ・日本語教育プログラムが学習者のニーズに沿ったものになっていない
- ・日本語教育プログラムが定住者を対象とした内容になっていない
- ・日本語教育プログラムの点検・改善が定期的に行えていない
- ・日本語学習の振り返りができておらず、成果が学習者・支援者双方に見えにくい
- ・日本語教室の開催時間・場所が適切ではない
- ・日本語教室で行う内容が初期指導にとどまり、継続的な日本語学習の場がない
- ・外国人の社会参加に繋がる教室活動が考えられていない
- ・外国にルーツを持つ子供や母親が日本語を学べる場がない

### ■地域の日本語教育に関する情報共有や周知・広報

- ・日本語教室の所在・活動内容等が外国人に知られていない
- ・外国人の社会参加に対する日本社会の理解が不足している
- ・日本語教室の存在意義を地域に周知できていない
- ・地域社会において日本語教室の認知度が低い
- ・日本語教育に関する活動の成果等の情報発信が十分ではない

※用語については各受講者が用いた表現を使っています。